

## 旧理覚院

実光院は 1919 年に現在の場所に移転した。地泉園と呼ばれる庭園は別の寺、理覚院の敷地にある。

この寺は、地域に点在する勝林院と関係が深い「子院」のひとつです。その他の子院には、宝泉院や普賢院があり、主要な寺の修行僧の住まいとなっていました。

この寺は明治時代（1868～1912 年）に財政的な困難に直面し、他の寺と合併したり、廃寺となったりした多くの寺院のひとつである。

大正時代初期（1912 年 7 月-1926 年 12 月）までの長い間、理覚院には住み込みの住職がおらず、普賢院も同じ状況でした。

その結果、宮内省よりその 2 院の解散および、実光院による理覚院の土地引き継ぎの命令がくだりました。また、これによって、2 人の天皇の墓を移転するための土地を確保することが可能になりました。

後鳥羽天皇は 1183 年から 1198 年まで、第 82 代天皇として在位しました。彼の息子である第 84 代順徳天皇は、1210 年から 1221 年の間、在位しました。

かつてここにあった寺への敬意として、日本の伝統的な茶室が、実光院の庭園に建てられ、理覚庵と名付けられました。

理覚院が 100 年以上前に解体されたとき、その敷地は伝統的な日本の庭園として整備され、現在まで残っている。